

園だより

2020年10月号
2020年10月1日発行

に じ

「♪にわのシャベルが 一日ぬれて 雨が上がって くしゃみをひとつ
くもがながれて 光がさして みあげてみれば ラララ
虹が 虹が 空にかかって きみの きみの 気分もはれて
きっと明日は いい天気 きっと明日は いい天気 ♪

作詞：新沢としひこ 作曲：中川ひろたか 」

9月初旬の夕方、雨上がりの空に大きな虹がくっきり。東京で虹を見たのは本当に久しぶりだったので、とても幸せな気分になりました。

今年はコロナ感染症の影響で、三密やクラスターのリスクを避けるために、園の行事がだいぶ制限されています。保護者や地域の方が参加するものはほぼできなくなり、おじいちゃんおばあちゃんの会もできませんでした。

それでも、年長きりん組にとっては保育園生活の最後の年。限られた中でも可能なかぎり、できるだけ楽しい思い出を残したいと願い、9月は保育園でのお泊り保育を行いました。保護者が作ってくれたお揃いの虹のTシャツを着て、水遊び、盆踊り、屋外でのカレーライス、夜の保育園探検や花火など、盛りだくさんのプログラムを楽しみました。お休みの子もなく、全員揃ってしあわせな時間を過ごしました。

虹といえば、聖書の「ノアの箱舟」のお話にでてきます。神から離れ、人々の中に悪がはびこる世界を憂いた神様は、洪水を起こして世界を水で覆いました。神の前に正しいノアに箱舟を作らせ、ノアの家族とすべての動物をひとつがいつつ箱舟に乗り込み、命が守られました。洪水の後、水が引いた陸地に降りたノアは、神様に感謝の礼拝を捧げました。その時、神様は「産めよ。増えよ。地に満ちよ」「二度と洪水が起こって、地を滅ぼすことは決してない。」と祝福と約束（契約）の印として大空に虹をかけたのです。虹は希望の証です。

長引くコロナの不安や恐れの中であっても、黎明保育園はノアの箱舟のように子ども達は守られてこの夏を過ごしました。そして、皆しっかりと成長をしています。神様からの祝福とお守りを信頼して、深まる秋を楽しみましょう。

園長 三幣 典子